

表紙のイラストについて

戦略を策定するにあたって、100年後の夢のなごやの姿について、「しみん検討会議」やアンケートなどで市民のみなさまから数多くのご意見をいただきました。表紙のイラストは、それらの意見をもとに描いたものです。「生きものいっぱい」「緑いっぱい」のなごやの絵を描くことができました。



生物多様性2050 なごや戦略 普及版



名古屋市

●戦略はどうやってつくったの？
「生物多様性2050なごや戦略」は、「戦略策定会議」を通じ、市民との協働によって策定しました。
「戦略策定会議」は、専門家や生物多様性アドバイザー、なごや環境大学のメンバー、NPOや地域の市民有志などで構成しました。

●戦略の本編はどこで手に入るの？
戦略の本編は、名古屋市公式ウェブサイトからダウンロードすることができます。
名古屋市公式ウェブサイト<http://www.city.nagoya.jp/>

名古屋市 環境局 生物多様性企画室
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話 052-972-2696 FAX 052-972-4134
メール a2696@kankyokiyoku.city.nagoya.lg.jp

このリーフレットは、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

“むか〜しむかし、瀬戸からなごやをとおり知多半島にいたる丘陵地には、連続した緑豊かな森がありました。”

こんな想像をしてみてください。

もし、今でも、その森が残っていたら？

「ごんぎつね」は、ふるさと半田から「モリゾーとキッコロ」に会いに海上の森まで旅をしたのではないのでしょうか？

そして、緑豊かな東山公園に、あるいは水辺の環境豊かな天白川に、ちょっと立ち寄ったかもしれません。

少し前の時代まで、なごやを含めたその周辺には、

“豊かな自然（多様な自然）”が残っていました。

便利で快適な暮らしを手に入れたことと引きかえに、わたしたちはそれらを失ってしまったのです。

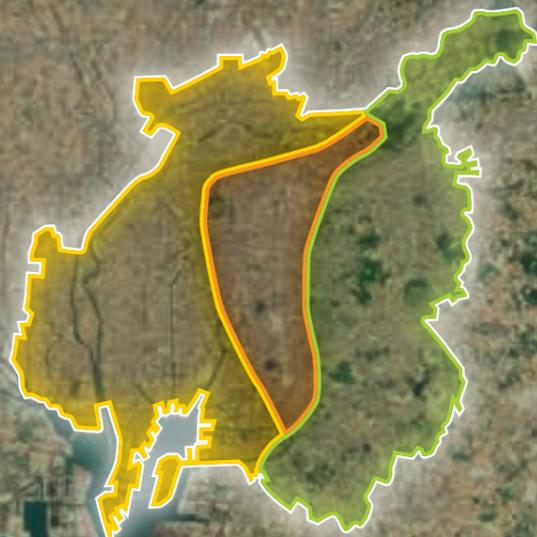
このままでは、今度はわたしたちが“暮らし”を失うことになります。

そのようなことにならないように、

未来につづく持続可能な自然と暮らしをつくるために、

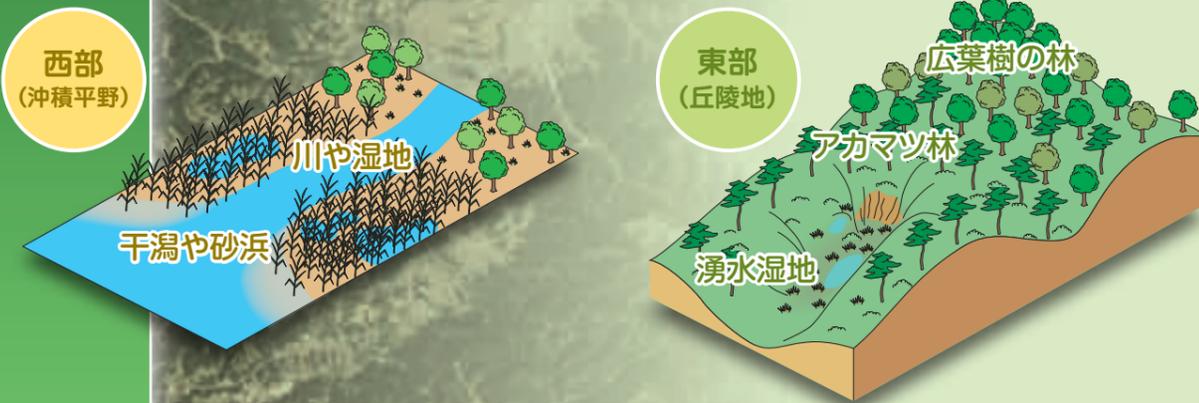
わたしたちの取り組むべき方針を示したのが

「生物多様性2050なごや戦略」です。

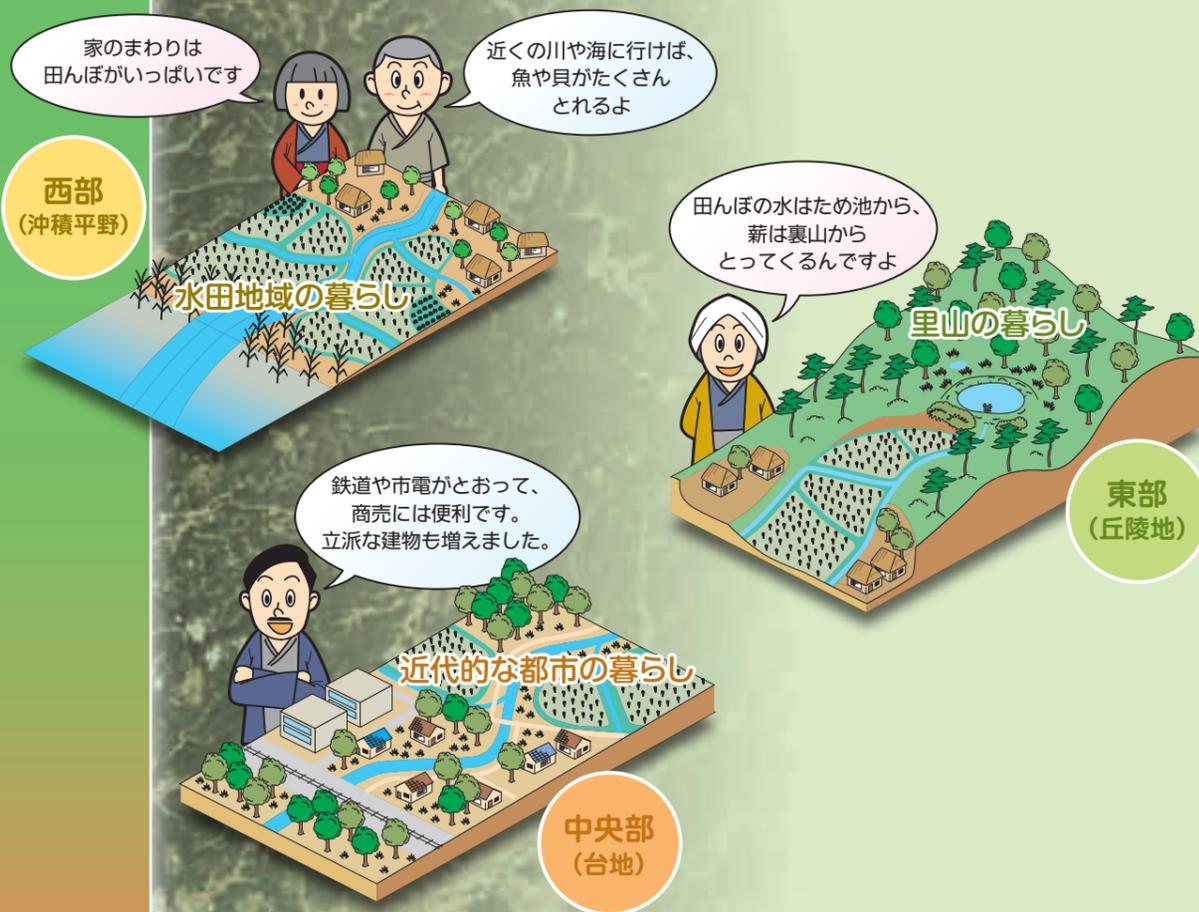


昔をふり返って、今を考え、未来を描きます

太古 自然の摂理がなごやの大地と生きものを創りました



100年前 風土にあわせた人の暮らしがありました



現在 身近な生きものや自然の恵みを忘れてはいませんか？

4~5ページ

2050年 将来ビジョンとその達成のための戦略を示します

6~7ページ

100年後 今あなたが始めれば、夢のなごやが実現します

6~7ページ

現在

今日、出会った生きものは何種類？ さっきの食事、食材の産地はどこ？

身近な生きものや自然の恵みを意識したことがありますか？

大雨で水浸しになったり 熱帯夜がいつまでも続いたり
見たことのない生きものが増えたり

近頃、まちの様子ที่ なんだか少しおかしな感じ
どうやら、わたしたちの暮らしや意識の変化と
関係しているみたいです

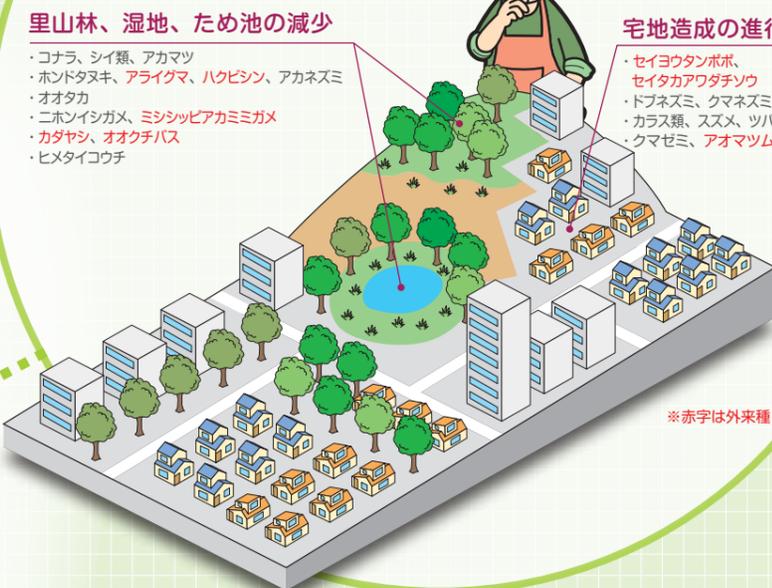
ナゴヤダルマガエル

「ナゴヤ」の名が付くカエルですが、市内ではほとんどみられなくなってしまいました。名古屋ではわずかに残った水田地域に細々と生き残っています。



東部 (丘陵地)

最近引っ越してきたばかりです。食材選びは旬や産地より値段優先。車ででかけてまとめ買いです。



里山林、湿地、ため池の減少
 ・コナラ、シイ類、アカマツ
 ・ホドトタスキ、アライグマ、ハクビシン、アカネズミ
 ・オオタカ
 ・ニホンイシガメ、ミシシippアカミミガメ
 ・カダヤシ、オオクチバス
 ・ヒメタイコウチ

宅地造成の進行
 ・セイヨウタンポポ、セイタカアワダチソウ
 ・ドブネズミ、クマネズミ
 ・カラス類、スズメ、ツバメ
 ・クマゼミ、アオマツムシ

※赤字は外来種

シラタマホシクサ

ホシクサは「星草」の意味で、星に似た白い小さな花が咲きます。なごや周辺の限られた湿地でしかみられません。



西部 (沖積平野)

近所にも川や海があるけど、水も汚いし近づきたくないな…
自分の家も昔は田んぼだったなんて信じられないよ



雑草地・緑地・水田の減少、耕地整理による水田の乾田化
 ・オオアサギ、クヌギ、セイタカアワダチソウ
 ・ヌートリア、チョウセンイタチ、ホドトタスキ
 ・オオタカ、ハクセキレイ、ウシガエル、キチョウ
 ・オオクチバス、フナ、アメリカザリガニ

河川・水路の人工化
 ・カワウ

宅地造成の進行

わずかな干潟
 ・ハマシギ、ダイゼン
 ・スズキ、ボラ、マハセ
 ・アナジャコ
 ・バイガイ、アメリカフシソウ
 ・ゴカイ類

護岸された海岸、干拓地の拡大
 ・オオブタクサ、クヌギ、セイタカアワダチソウ

※赤字は外来種

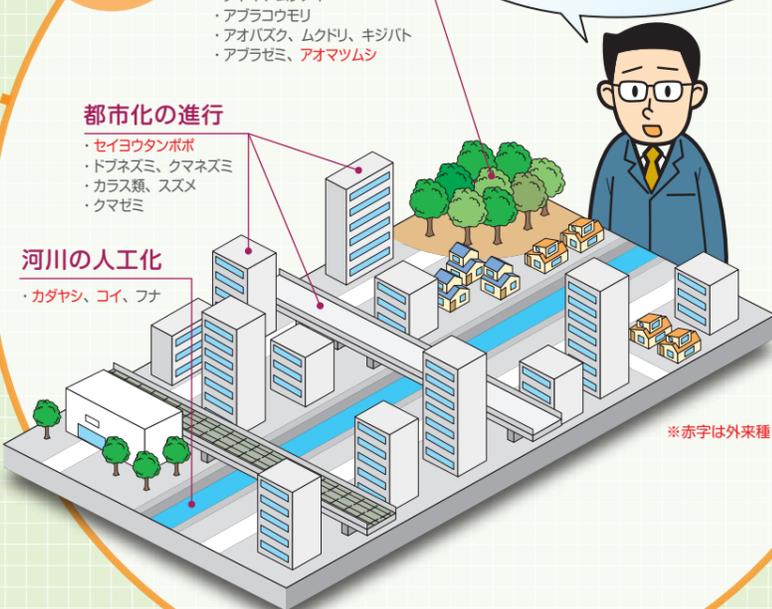
コウベモグラ

都市部ではもうほとんどみられませんが、名古屋城ではお堀に守られて生き残ってきました。名古屋城のものは他の地域のものより体が大きいといわれています。



中央部 (台地)

夏は夜になっても暑いんです。緑や生きもの？ こんな都会に必要なんですか？



公園、社寺林、街路樹に残された緑
 ・クスノキ、クログナモチ、ケヤキ、ムクノキ
 ・アブラコウモリ
 ・アオバスク、ムクドリ、キジバト
 ・アブラゼミ、アオマツムシ

都市化の進行
 ・セイヨウタンポポ
 ・ドブネズミ、クマネズミ
 ・カラス類、スズメ
 ・クマゼミ

河川の人工化
 ・カダヤシ、コイ、フナ

※赤字は外来種

2050年のビジョンを定めました

多様な生物と生態系に支えられた
豊かな暮らしが持続していく
都市なごや

それを4つの戦略で達成します

戦略1 自然に支えられた健康なまちを創ります

戦略2 環境負荷の少ない暮らし・ビジネスを創ります

戦略3 自然とともに生きる文化を創ります

戦略4 まもり・育て・活かすしくみをつくりま

2050年にはこうなっています

まちと自然

- 生きものすめる場所を40%に拡大(緑被率25%→40%)
- なごやらしいたくさんの生きものに身近なところでふれあえる
- 土・水・緑につながる回廊を、生きものたちが行き来する

暮らし・ビジネス

- 自然を活かした快適で環境負荷の少ない暮らし
- 自然を活かしたビジネスの成長
- 自然を大切にしたい生産現場が見える店先

自然への価値観

- 葉すれの音、虫の音、鳥のさえずりがお気に入りのBGM
- 自然とつきあう知恵が世代をつなぎ、伝統と創造が融合
- 地域の自然が誇りとなり、コミュニティが生き生き

しくみ

- 自然の助けを借りる知恵が、社会のしくみに活かされている
- 多様な市民活動のネットワークが、都市と自然の共生を支えている

100年後



さあ、あなたも始めましょう!

- 家庭菜園や屋上緑化で緑をふやしましょう
- 自然観察会や里山体験などに参加しましょう

- 買い物をするときは認証マークを確認しましょう
- 歩いたり自転車を使って季節の変化を楽しみましょう

- 昔ながらの生活の知恵を見直してみましょう
- 流域圏内の農産品や木材を積極的に使いましょう

こんな夢のなごやが実現します

西部

- 農業に市民が参加しています
- 自然にちなんだ地域の祭りや伝統行事が行われています
- 地元の野菜が朝市に並んでいます
- 水辺の生きものがたくさんいます
- 河川、水路、水田が連続しています
- 市民農園が盛んです

中央部

- 都市の緑が生きものすまかになっています
- ビルは屋上緑化や壁面緑化されています
- 道路敷地内の緑や水が生きものすまかになっています
- 道路が緑道と自転車道になっています

東部

- 里山が手入れされています
- 子どもが農業を体験しています
- 身近な燃料(間伐材)を使っています
- 公共交通を活かした暮らしをしています
- 緑と水がつながり、生きものすまかが広がっています
- 身近な自然を体験・観察しています
- 歩いて買い物に行ける距離に住んでいます
- ため池と河川が連続しています
- 屋上や庭で野菜をつくっています

流域圏上流部

- たくさんの生きものが人と共存しています
- 家や家具に上流部の木を使っています
- 下流部の人々が環境学習に来ています
- 下流部の人々が農業体験に来ています
- 家や家具に上流部の木を使っています
- 下流部の人々が環境学習に来ています